水質汚染について

曽爾村立曽爾中学校　三年
米原　修平

「へえー。海や川の水が生活排水によって汚れてんねんて。」
ある新聞記事を読んで、僕は父に言った。その新聞記事には、洗剤や油の混じった水が川や海に流されて水質汚染が深刻化していることなどが書かれていた。父は、
「そうやなあ。うちでも少しでも汚染を防ぐために節水したりしやんなあかんなあ。」
と言っていた。ぼくは、その時はそれ以上そのことについて深く考えなかった。
それからしばらくたって、社会の授業で足尾銅山の鉱毒事件について習った。足尾銅山鉱毒事件は、渡良瀬川に鉱毒が流れ出し、下流の田畑は荒廃、魚類は死滅し、住民にも死亡や失明などの被害が出た、日本で最初の公害だった。ぼくはそのとき、改めてあの新聞記事について考えた。そういえば最近、よく川や湖に油が浮いているのを見たり、水質汚染についてのニュースを耳にしたりする。これらの水質汚染は、産業を発展させてきた人間が産み出したものだと思った。だからこそ、ぼくたち人間は水質汚染を改善できるように努力しなければならないと強く感じた。
しかし、「生活水準を上げるためには水質汚染はさけられない」と思っている人もいるかもしれない。だが、その新聞記事には、
「生態系に影響することは人間にも影響する」
とも書いてあった。例えば、水が汚れると、魚が死んで、人間が魚を食べられなくなる。また、農作物に被害が出たり、公害が発生して人間が病気になったりもする。このように、水質汚染によって、人間も損害を受けているのだ。そのことを踏まえて考えると、「水質

汚染はさけられない」などと言っている場合ではないのではないだろうか。

ぼくは、水質汚染がぼくたち人間に、「このままでは大変なことになるぞ。」という警報を発しているように思えてならない。その警報をしっかり受けとめ、水質汚染を改善できるように努力することが、ぼくたち人間に課せられた義務だと思う。

確かに、下水道が整備されていない地域などでは、「水質汚染を改善できるように努力する」と言われても、何をすればいいのか分からないかもしれない。だが、下水道が整備されていない地域でも、父の言っていた「節水」など、少しでもできることはあるはずだ。

僕は、人間一人一人が身近なできることをしっかりやっていくことが大切だと思う。僕自身も、水質汚染に対する見方がだいぶ変わった。これからは、こまめに水道のじゃ口やシャワーを止めたり、油を水道に流しすぎないようにする等、自分にできることを見つけてしっかり実行していかなければならないと、強く思った。未来を生きる自分たちにとって、水質汚染を改善できるかどうかには、人間の存亡がかかっているといってもよいと思う。